

# 対大阪大学阿部ゼミ・インゼミ報告

文責：藤中智章

20世紀最後の年の12月2日、大阪大学にて大阪大学・阿部ゼミナールとのインゼミが行われました。インゼミ当日には、岩本ゼミ側から2・3回生計4名がプレゼンテーションや質疑応答に参加しました。

本年度の阿部ゼミとのインゼミは、昨年度と同様に、ディベートではなく理論的な内容を踏まえた勉強会という形で行われました。

以下、当日に至るまでを振り返りつつ、今回のインゼミを総括してみたいと思います。

## ◆インゼミ準備期(2000年夏頃～インゼミ前日まで)

### テーマ設定

阿部ゼミとは2年連続2回目のインゼミとなりました。テーマ設定に関して、阿部ゼミは貿易論が専門のゼミなので、対阪大班を任された当初は「貿易論」を題材にしたテーマ設定をしなければいけないのではないかと考えていました。

しかし、交渉の席において阿部ゼミ側が、「岩本ゼミが本年度も4校(以上)相手にインゼミをする予定であること」や「その中で対阪大班は対関学班を合わせた“アメリカ班”としてカテゴライズされているということ」に理解を示してくれたことを第一の理由に、そして阿部ゼミ側も「貿易論」を題材としたテーマ設定にこだわっているわけでもないことを第二の理由に、今回のインゼミのテーマとして『アメリカ経済』を取り扱うということになりました。

当たり前のことですが、アメリカを取り扱うということだけでは具体的なテーマ設定まで至ったということにはなりません。そこで京大側・阪大側双方で話し合ったところ、「金融政策」や「財政政策」を勉強してみたい。」という意見が出たので、「それでは、日本とアメリカを比較させる形にすればおもしろいのでは…」と思い、『日米金融・財政政策比較』をテーマとして設定することになりました。そこで、最近の日本とアメリカの金融・財政で話題となっているネタをピックアップしてみたところ、

#### 《アメリカ》

- ・ブッシュ対ゴアの財政政策比較
- ・アメリカの株価高騰

#### 《日本》

- ・ゼロ金利解除問題
- ・財政赤字問題

といった論点が挙がりました。しかし冷静になって考えてみると、金融政策にせよ財政政策にせよ日本とアメリカで明確な対立軸が存在するというわけではないことや、上記の4つの論点を今回のインゼミで取り扱うのは物理的にも不可能であるということに気づき、4つの論点のうちひとつだけを今回のインゼミのテーマとして採用することにしました。こうした経緯を踏まえて、今回のインゼミでのテーマが『アメリカの財政黒字の使い道〜ブッシュ対ゴアの財政政策比較』に決定されました。

### 具体的内容

アメリカ経済は1990年代に未曾有の景気拡大を経験した結果、財政黒字に転換させました。今回の大統領選では、その財政黒字の使用用途が、両候補者の主張の主な対立点となりました。具体的に言えば、ブッシュ陣営が大幅な減税を主張する一方で、ゴア陣営は減税よりも累積債務の削減や福祉の充実を優先すべきだと訴えかけていました。そこで今回のインゼミでは、ブッシュ陣営の主張である「大型減税と福祉の縮小」が果たしてアメリカ経済にとって望ましいかどうか、その有効性（ブッシュ陣営の主張）・非有効性（ゴア陣営の主張）を議論の中心に据えて、それを経済学的に分析してみようと試みました。

交渉の結果、阿部ゼミがブッシュ陣営を、岩本ゼミがゴア陣営を擁護する立場に立つて考えることになりました。阿部ゼミ側は、ブッシュ陣営の理論的バックボーンであるサプライサイダーの考えをもとに大型減税・福祉縮小の必要性・有効性を主張することになりました。サプライサイダーとは、長期的な視野に立てば、経済の規模の決定要因となるのは供給能力であるから、それを伸張させることが必要である、とする立場のことを示しています。そこでは、市場の調整能力機能を前提として、「大きな政府」の弊害を主張しています。それに対して、岩本ゼミ側では、とりわけ「需給の不均衡」という点においてサプライサイダーと対立し得る考え方として、ニューケインジアンに主張に着目しました。このニューケインジアンの立場は、必ずしもケインズ的な裁量政策を是認するものではないし、また実際にゴア陣営の理論的バックボーンとなっているわけでもないのですが、この立場からゴア陣営を擁護してみようと試みることになりました。

### ◆インゼミ当日(2000. 12. 02@阪大)

当日は遠藤さんに司会をして頂きました。当日のタイムスケジュールは以下です。

- ①阿部ゼミ側プレゼンテーション
- ②岩本ゼミ側プレゼンテーション
- ③対阿部ゼミ質疑応答
- ④対岩本ゼミ質疑応答
- ⑤講評

## 立論の内容

両校のプレゼンテーションを始める前に、司会の遠藤さんが、このインゼミでの議論のポイントやその背景などに関する説明をしてくださいました。その後、阿部ゼミ、岩本ゼミの順番でお互いの立論を発表しました。

阪大側の立論では、まずサプライサイド（供給側）の考え方を必要に応じてグラフを使いながら説明し、次に減税によって、資本・労働供給・技術進歩度の成長が促されることをもとに減税の有効性を示し、最後にブッシュ陣営の提言する社会保障制度改革（＝福祉の縮小）について言及しました。

一方で京大側の立論では、まずニューケインジアン立場を、その発展経過を踏まえつつ明らかにし、ニューケインジアンの考えがどのようにして政策に反映されているかを示しました。次に、『黒字財政のもとでの大型減税政策の非有効性』について、ニューケインジアン代表的な考え方である「市場の不均衡」や「時間的整合性」をもとに分析してみました。まず「市場の不均衡」を前提とした場合、大型減税にはインフレを加速させるなどといった危険が潜んでいるということを示し、次に「時間的整合性」の問題からみれば、財政黒字転換による大型減税政策は事後的な政策であり、ルールに基づくものではないといえることを示しました。また、必要に応じて「時間的整合性」や「ハーヴェイ・ロードの前提」といった用語に関する補足説明を付け加えました。

## 質疑応答

質疑応答に関しては、京大側からは「減税は消費の過熱につながるのではないか?」、「一時的に減税しても後の増税に繋がるのでは?」、「貯蓄率が超低水準で推移している現在のアメリカにおいて、社会保障費の抑制は有効な政策といえるのか?」などを質問しました。一方、阪大側からは「需給の不均衡により、需要不足が発生する理由は?」、「発生した需要不足は政府で補うべきだと考えているのか?」などといった質問がありました。

前回の阪大とのインゼミでは、会場の時間制約を守るために質疑応答の時間が削られたりしましたが、その反省点を踏まえ今回のインゼミではなかなか活発な質疑応答ができたように思えます。

## 講評

質疑応答を終えると、大阪大学の阿部先生から講評をいただきました。取り扱ったテーマが難しかったが、それなりの議論ができていたことに関しては、お褒めの言葉をいただきました。しかし、もう少し踏み込んだところまで議論できたはずだと厳しい指摘もいただきました。具体的には、「現在の公共投資は“量”よりも“質”が重要であるから“質”的な部分について議論すべきであり、減税に関して“量”的な部分しか着目していなかった。ここでいう減税とはどのような種類の減税であって、どのような影響を与えるのかといったところまで考えるべき。」といった内容のことを指摘されました。

## ◆ インゼミを終えて…

### 内容に関する感想

当初はインゼミまでにはすでに 21 世紀最初の大統領は決定しているだろうと思っていましたが、実際の大統領選挙の結果が出たのは、意外なことにわれわれのインゼミが終わってからでした。今回のインゼミでは、当日の司会を務めてくださった遠藤さんの全面的なバックアップを得て作業を進めてきました。インゼミ前日までの作業を通じて、“理論”と“現実”を結びつけるということを実践しようと試みたことに対しては、「大学に入ってはじめてまともな勉強をしている」といった自負を持っていましたが、インゼミの最後にいただいた阿部先生のコメントには、自らの勉強不足を痛感せざるを得ませんでした。

アメリカ在住の知人に聞いたところ、大統領選挙とは 4 年に 1 回訪れるアメリカの国民行事であり、(日本とは違って) アメリカ国民の大統領選挙に対する関心度は非常に高いようです。私の個人的な意見ですが、今回はインゼミという形でその歴史的なイベントを評価・分析することになりましたが、次回(4年後)もまた違う形で違う角度からその歴史的なイベントを分析できれば、と思っています。

### インゼミによって得られるもの…

インゼミをやる上で“勉強”することは確かに重要なことだと思います。しかし、私がおっと重要だと感じたのは、人との“交流”(ゼミ内外での交流)でした。もしインゼミの目的において、“勉強” > “交流”という不等式が成り立つのであるならば、はっきりいってやる意味はないと思います。なぜならば、勉強したいだけなら個々人が勝手にやればいいことだし、何の関係もない他大学をまきこむなんてもってのほかだと思うからです。

二回生のみなさんへ。インゼミという「他人と協力して何らかの作業をする場」、「他大学の学生と交流するきっかけ」を与えられているということは非常に貴重なことだと思います。だから変に気負うことなく、その貴重な経験を楽しむぐらいの余裕を持って、来年度のインゼミに取り組んで欲しいと思います。

### おわりに…

メンバーのみなさんへ。当日は司会を務めて頂き、今回のインゼミに関して多くの知恵を授けてくれた遠藤さん、関学とのディベートで疲れているなか協力してくれた櫻本君と熊野君、留学先のアメリカから大統領選に関する情報を提供してくれた秋山さん、そして、いいかげんな男がなぜか班長であった対阪大班を影で支えてくれた舟橋さん。みんな本当にどうもありがとう!!

そして、阪大の阿部先生、交渉役の古田君・大西君をはじめとした阿部ゼミのみなさん、その他大勢の私たちを支えてくださった方々へこの場を借りて感謝とお礼を申し上げたいと思います。